

★「高企連携」News & Topics	
北海道	可能性が広がる総合学科制 etc. 2
東北	指導計画「マスタープラン」 etc. 3
関東・首都圏	新世代の農業人材育成 etc. 4
東海・北陸	フレキシブルハイスクール etc. 5
近畿・中国・四国	通信インフラ業界 etc. 6
九州・沖縄	地域貢献「志事図鑑」 etc. 7
グローバル	インドネシアレポート vol.7 8

# 支援 & 就職 ジャーナル

高校の先生方との連携による紙面編集

「キャリア&amp;就職支援ジャーナル[高等学校版]」は高校の先生方と民間企業・行政機関、および大学・短期大学・専門学校等をつなげるフリーペーパーです。Career &amp; Job-hunting-activities Times for High School Teachers [通巻第77号]

## 令和9年3月卒業生 就職・採用活動日程は例年通り。早期の情報収集と対策がカギ

新年度を目前に控え、卒業後の進路選択に真剣に向き合っている高校2年次生は少なくないだろう。「進学」や「就職」を問わず、将来への期待と不安が入り混じるのもこの時期特有なのかもしれない。今号では、厚生労働省や文部科学省から発表された最新の就職に関するニュース&トピックスについてお届けする。

### 高校生の就職活動日程が決定 「一人一社制」の動向に注目

厚生労働省は2月16日、「令和9年3月新規高等学校卒業生の就職に係る採用選考期日等」を取りまとめ公表した。

新規高等学校卒業生の採用選考期日等は、全国高等学校長協会（本部東京・港区）、日本経済団体連合会（本部東京・千代田区）、日本商工会議所（本部・同）、全国中小企業団体中央会（本部東京・中央区）、文部科学省および厚生労働省が「高等学校就職問題検討会議」を開催し、高校を卒業する生徒等の採用選考期日等を取りまとめることになっている。

発表によれば、令和9年3月に高校を卒業予定の就職希望生徒等に対する採用選考期日等は、「ハローワークによる求人申込書の受

付開始」が6月1日、「企業による学校への求人申込及び学校訪問開始」が7月1日、「学校から企業への生徒の応募書類提出開始」が9月5日（沖縄県は8月30日）、そして「企業による選考開始及び採用内定開始」が9月16日からとなり、令和8年3月卒業生と同様になることが正式に決定した。

就職慣行とされるこうした高校新卒者の就職活動に関して、特に大きな注目を集めるトピックスは、「一人一社制」だろう。これは、一定の期日まで就職志望生徒一人については一社に限り、学校内で選考した者を高校が推薦するという制度のこと。高校と企業の関係がより緊密化する「実績関係」によって、高校側にとっては就職先企業を安定的に確保する可能性が高まり、企業側は年齢的にも若

くて柔軟な思考と理解力のある人材を継続的に採用することができるメリットがあるとされている。

また、景気変動による余波を低く抑えられることや就職活動の長期化による生徒の学業への影響を軽減できるなどの観点から、高校の進路指導現場を中心に幅広く普及・定着してきた背景がある。

実際に生徒を指導する立場の高校教員の声はどうか。その実態は、「一人一社制」を支持する回答の割合が高いものとなっている。厚生労働省が平成30年5月に全国1,800校の「専門高校（職業学科）」および「1割以上就職者のある公立・私立高校」を対象に行った「現行の就職慣行に対する高等学校の進路指導担当教員の評価等」に関するアンケート調査によると、一人一社制については「現行のままがよい」が74.1%で最多だった。

そのほか「1人1社のみがよい」12.6%、また「複数応募解禁時期や複数応募の数を見直した方がよい」2.0%、「最初（9月16日）から応募に制限をかけない方がよい」は0.7%にとどまり、「現行のままがよい」と「1人1社のみがよい」の合計は86.7%と、約9割近い高校教員が現在の一人一社制を支持していることがうかがえる。

現在、「複数応募制」を採用しているのは、秋田県、茨城県、大阪府、和歌山県、沖縄県の5府県。特に、秋田・沖縄は「当初から1人3社まで応募・推薦を可能」としている。ただし、このような複数応募は、いわゆる「公開求人」に限られており、企業側が一人一社制での応募・推薦を希望する「指定校求人」に関しては、引き続き一社しか応募することができない点には注意が必要だろう。

### 最新の就職内定率が明らかに 企業研究・対策を早めに進める

文部科学省が公表した



「令和8年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況（令和7年12月末現在）」によると、高等学校卒業予定者は93万2,925人。そのうち就職希望者は12万7,372人で、就職内定者は11万5,582人だった。就職希望者に対する就職内定者の割合を示す「就職内定率」は90.7%で、前年同期比0.6ポイント減少したことが分かった。これを男女別に見てみると、男子に関しては91.6%（前年同期比0.4ポイント減）、女子は89.3%（同0.9ポイント減）で、男子のほうがわずかに高かった。

続いて、就職内定率が高い順から学科を並べてみると、①「工業」96.9% ②「商業」93.8% ③「看護」93.8% ④「水産」93.0% ⑤「農業」92.6% ⑥「情報」90.0% ⑦「福祉」89.9% ⑧「家庭」89.8% ⑨「総合学科」88.2%、⑩「普通」83.9%となっていた。

専門分野が学べる学科は、卒業後の進路として就職希望者が少なくないことから、企業などとのパイプが強かったり、就職支援体制が十分に整っていたりするケースが多い。

一方、普通科は、大学や専門学校への進学を目指す生徒に対する支援体制が相対的に強く敷かれていることが多い反面、就職実績が乏しい高校では就職希望の生徒に対する支援が十分ではないケースもあるとされ、専門分野が学べる学科よりも低い結果につながっていると推察される。

都道府県別はどうか。就職内定率が高い県は、上位から富山県96.4%、福島県96.3%、福井県96.2%、三重県96.2%、佐賀県96.0%、山口県94.9%と

続いた。反対に、就職内定率の低い県は、下位から順に沖縄県71.1%、神奈川県82.7%、東京都83.6%、大阪府84.0%、千葉県84.2%、高知県86.7%となっていた。

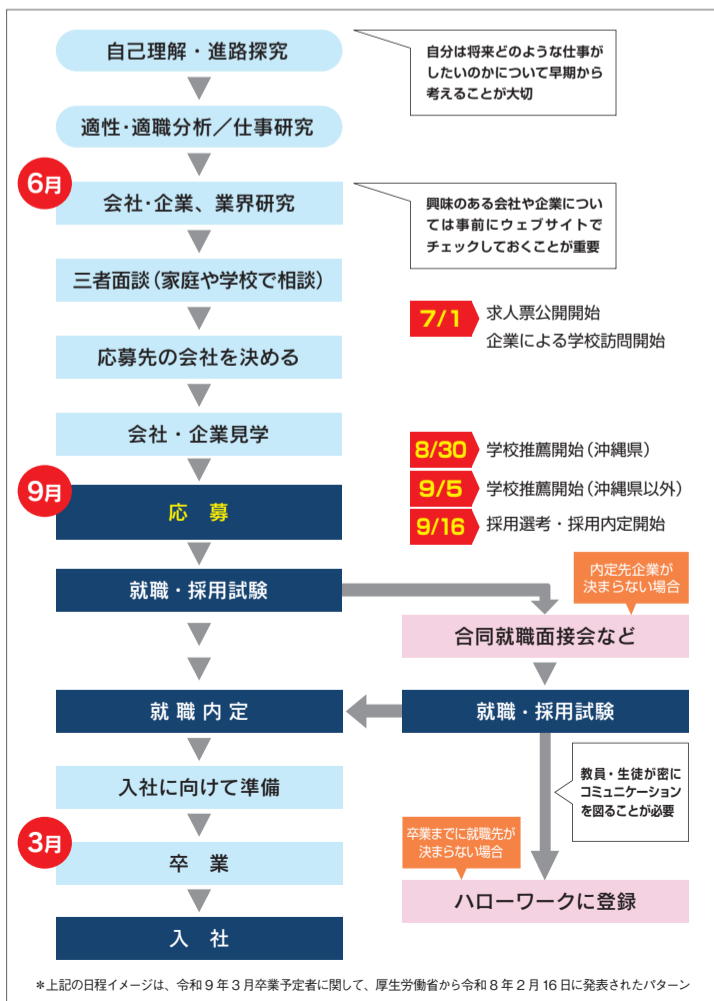
最下位の沖縄県と2位の神奈川県の差は11.6ポイントも開いている点に注目したい。文部科学省の同調査では取り扱いのない「新卒求人倍率」について、厚生労働省による類似調査「令和7年度『高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況』取りまとめ（9月末現在）」に当たってみると、沖縄県の求人倍率は1.62倍で、全国で最も低い数値だった。

これは、求職者一人当たりに対して1.62件の求人があることを表している。先ほどと同様に、就職内定率が下から2番目の神奈川県の4.59倍と比較すれば約3倍もの格差があり、地理的に近い福岡県の3.41倍と比べても約2倍の格差があることがうかがえる。

現在高校3年次で、卒業後は就職が決まっている生徒のみなさんは、これまでの高校生活で培ってきた学びや経験を存分に発揮し、新社会人としての第一歩を力強く踏み出して欲しい。

また、現在高校2年次で、就職を希望している生徒のみなさんは、採用選考スケジュールを理解した上で、早めに自己分析や企業研究を進めていくことが大切だ。2年次の3学期からは、学校内・外で行われる進路ガイダンスの機会も増えてくるだろう。多様な業界や職種の情報を得ることで、企業の比較・検討に活用して欲しい。

### 就職・採用活動のフローチャート



\*上記の日程イメージは、令和9年3月卒業予定者に関して、厚生労働省から令和8年2月16日に発表されたパターン







# 東海・北陸 フレキシブルハイスクール グローカル・ハイスクール



## 多様な目標進路を実現する学習環境 企業と学校をつなぐ教員対象研修

愛知県立武豊高等学校（愛知県知多郡武豊町、浅井伸彦校長）は、令和7年度入学者から全日制・昼間定時制・通信制の3課程を一つの学校内に置く「フレキシブルハイスクール」に生まれ変わった。進路指導主事の濱勇樹教諭を訪ね、進学希望から就職希望まで多様な生徒が集まる中で行われている進路指導についてお話をうかがった。

### ●生徒のニーズに合わせた学び

「愛知県立半田高等学校武豊分校」の伝統を引き継ぎ、昭和51年に独立した愛知県立武豊高等学校。令和8年には創立50周年を迎え、自然豊かな土地で地域に根差した教育活動を展開してきた。

教育目標に「生命を慈し



落ち着いた学習環境を整備している

み、明るくたくましく生きるとともに、こころ豊かな生活を築く態度を養い、社会に貢献することのできる人間の育成をめざす」を掲げている。

令和7年4月からは、生徒の多様なニーズに応えるため、愛知県内の先駆的な公立高校「フレキシブルハイスクール」の一つとして生まれ変わった。

フレキシブルハイスクールとは、「全日制」「昼間定時制」「通信制」の3課程を一つの学校に備えた単位制高校のこと。全日制では、

興味・関心に応じた科目選択によって、自ら学びを設計する力を醸成。通信制では、自分のペースで学習を進めることで、多様な学びの選択肢を提供する。昼間定時制は、全日制的3限目から1日4時間の授業を受けられるといい、ライフスタイルに合わせた学習を支援する。

必要に応じて在籍している課程を変更可能な「転籍」のほか、昼間定時制・通信制の生徒が全日制的生徒と一緒に授業を受けながら単位認定を目指す「併修」によって3年間で卒業できるのが特徴だ。

このように、3課程による「高校卒業後の人生を豊かにすること」を目指した

学習指導・進路指導を行い、進学と就職両方の希望をかなえる環境を整えている。

### ●企業と学校をつなぐ「進路研修」

武豊高校では、進路に悩む生徒が対象の「放課後進路相談室」を不定期開催している。国立大学に進学した卒業生や地元企業の人事・採用担当者を招き、実体験を交えながら進路選択のポイントや心構えを聞く機会を設けている。

そのほかにも、昨冬は教員が対象の「進路研修」を初めて開催。これは、企業ごとにブースを設置し、人事・採用担当者と教員が直接話せるというもの。

進路指導主事の濱勇樹教諭は「私は学校の窓口となって企業の方々と関わることがありますが、ほかの先生方にはコミュニケーションが十分ではない部分があると気づき、互いに質



大きな盛り上がりを見せた「進路研修」

問し合える機会をつくりたいと思いました」と、開催の理由を語る。

研修では、学校現場と企業が考える身だしなみの基準や出欠席などに対する考え方のギャップを知ることができたと明かし、生徒の就職支援に活かすヒントを得られたという。

「生徒を送り出した企業がどのような雰囲気なのかを知るだけではなく、教員の考え方や学校の在り方もアップデートしていく必要があると実感しました」と、濱教諭。

武豊高校では今後も、多様な進路選択の実現に向けて指導に注力していく。



## 地域社会との連携が実現する教育活動 多くの選択肢を比較・検討する重要性

湖西市の浜名湖を望む静かな環境に位置する静岡県立湖西高等学校（静岡県湖西市、望月俊和校長）は、令和3年度から「グローバル・ハイスクール」の指定を受けて以降、地域と密着した教育活動を展開している。富士盛伸副校長と進路課長の居澤貴弘教諭を訪ね、現在の就職環境について具体的なお話をうかがった。

### ●地域に根差す普通科高校

静岡県立湖西高等学校は、「地元で普通科の県立学校を！」という地域住民の悲願により昭和54年に誕生した。「生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自ら考え実践し、地域に貢献し社会・産業を支える人材の育



地域産業界から期待される人材育成を目指す

成」を目指している。

価値観や進路選択の多様化が進み、高等学校における普通科教育の在り方が問われる昨今、令和3年度に「グローバル・ハイスクール」の研究指定校となって以降、地域との関係性をさらに深めてきた。

2年次の「総合的な探究の時間」では、湖西市長の講話を通して地域について学びながら、湖西市の活性化をテーマにグループで協議したり、市議会と意見交換を行ったりしている。そ

のほか、公民科の「まち歩きマップ」や「食レポ動画」の作成、保健体育科の「野外活動」におけるキャンプや釣り体験、音楽科での「鷲津節」の伝承など、バラエティーに富んだ授業が展開されている。

令和4年に市制施行50年を迎えた湖西市役所や地元企業との協業の流れの中で、同校はトヨタグループの創始者であり地元出身の豊田佐吉の名言を集めた「佐吉の日めくりカレンダー」の英訳版製作に協力したり、ゼロカーボンシティ実行計画策定協議会やまちづくり協議会に参加したりするなど、湖西市と密着したさまざまな教育活動を展

開している。

### ●地域特性に由来する就職率

1年次は、生徒全員がインターンシップに参加し、就労の意義や企業理解を深め、2年次になると地元企業の人事・採用担当者と直接話ができる「JOBフェア」や外部講師による就職試験対策などを実施。就職・採用試験を控えた3年次では面接試験対策をはじめ、社会人に求められるマナーを学ぶ講座を行う一方、進学ガイダンスやスタディサプリを用いた指導等、進学指導にも余念がない。

令和8年3月卒業生の進路内訳は、就職者が約6割、進学者が約4割となっており、進路に関して幅広い希望の実現を下支えするカリキュラムが魅力だ。普通科でありながら卒業生の半数以上が就職を果たす状



1年次生全員がインターンシップに参加する

況は、湖西地域が国内有数の工業都市であることと無関係ではないだろう。

同校の生徒は、地元志向かつ大手志向であるというのが、進路課長の居澤貴弘教諭の分析だが、「売り手市場の中、地元の中堅・中小企業に生徒の目を向けさせるのが、なかなか難しい状況です」と、語る。

志望先を「地元の大手企業」と最初から絞り込み過ぎることなく、情報を集めて比較・検討するためにも、進路行事を通して生徒の選択肢や視野を広げていくことが今後の課題だと捉えている。

**会員企業 キヤリア教育 支援協議会**  
**高卒採用は宝の山**  
 森部好樹 著、日経BP社 発行

**高卒採用は宝の山**  
 成長企業は高校新卒者を積極採用していた！  
 将来の伸びしろが大きく、多彩な現場で活躍できる高校新卒者の採用実態、社員のインタビューなどを豊富に掲載。スタート・アップ、ベンチャー、中堅・中小企業のための理想的な人材獲得戦略を指南する一冊です。

お問い合わせ **キャリア教育支援協議会**  
 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24  
 TEL 03-5925-1659(ラインスタアカデミー内)

**スズキ株式会社**  
 小さなクルマ、大きな未来。

●基幹事業 四輪車・二輪車・船外機・電動自転車などの開発・製造・販売  
 ●設立 1920年(大正9年)  
 ●資本金 1,383億7,000万円  
 ●従業員数 17,414人

**会社の強み・社風**  
 使いやすさ・楽しさ・驚きをキーワードに、さまざまなモビリティを自社で企画から販売まで行っている。輸送機器メーカーです。スズキのモノづくりの根幹を表す、届けます。

〒432-8611 浜松市中央区高塚町300  
 TEL 053-440-2088  
 URL https://www.suzuki.co.jp/

**ADVICS 髯アドヴィックス**  
 “止まる”技術で未来に貢献

●基幹事業 自動車用ブレーキシステムおよび構成する部品の開発・生産・販売  
 ●設立 2001年(平成13年)  
 ●資本金 122億円  
 ●従業員数 連結:13,842人 単体:4,997人

**会社の強み・社風**  
 「ブレーキ」——それはどんなに自動車が進化したとしても、絶対に必要な部品です。電子制御ブレーキシステムからパッドマスタまで数少ない「世界でも数少ない」表現を目指しましょう。

〒448-8688 愛知県刈谷市昭和町2-1  
 TEL 050-3094-5223  
 URL https://www.advics.co.jp/

**フジパン フジパングループ本社髯**  
 「本仕込」のフジパンです!

●基幹事業 パンと洋菓子の製造と販売のほか、物流、パン製造販売店の運営など  
 ●設立 1951年(昭和26年)  
 ●資本金 46億8,200万円  
 ●従業員数 約14,470人

**会社の強み・社風**  
 フジパングループでは、製パンのみではなく四つの事業を展開しています。「ホールセール」「リテイリング」「デリカ」「ロジスティクス」。グループ全体で多彩な食品をお応えしています。

〒467-8651 名古屋市中区瑞穂区松園町1-50  
 TEL 052-831-5152  
 URL https://www.fujipan.co.jp/company/

**ISUZU 三重いすゞ自動車髯**  
 お客様に信頼されるパートナーに

●基幹事業 新車・中古車販売業 など  
 ●設立 1952年(昭和27年)  
 ●資本金 1億500万円  
 ●従業員数 245人

**会社の強み・社風**  
 トラックやバスを中心に、モノや人を運ぶ輸送車両を扱う当社は「運ぶを支える」という使命のもと、三重県下のお客様に信頼されるパートナーとして、ニーズに合ったサービスを提供しています。流を支えている会社です。

〒514-8711 三重県津市垂水字中境505  
 TEL 059-227-8111  
 URL https://www.mie-isuzu.co.jp/

# 近畿・中国・四国 通信インフラ業界 新入社員合同研修

**エクシオ・エンジニアリング西日本株式会社**

## 高い技術力と安全管理を強みに社会インフラの整備・発展に貢献 高校新卒者を将来の基幹人材と位置づけ大切に育成する社風

東京プライム市場に上場し、令和6年度の売上高は6,708億円を誇るエクシオグループ株式会社(本社東京・渋谷区)。そのエクシオグループ社のグループ企業で、主に関西・中国地方で通信インフラ整備事業を展開しているのがエクシオ・エンジニアリング西日本株式会社(本社・大阪市、児玉文明代表取締役社長)だ。同社の企画総務部・水谷一葉氏を訪ね、事業内容や新入社員の人材育成システムについてお話をうかがった。

### グループ企業が合併して誕生 持続可能な社会の実現に貢献

エクシオ・エンジニアリング西日本株式会社は、エクシオグループ株式会社の子会社だった株式会社三協テクノと協栄電設工業株式会社が合併し、令和4年7月に誕生した比較的新しい会社です。とはいえ、協栄電設工業が創立したのは昭和54年ですから、およそ



企画総務部 人事担当 水谷一葉氏

半世紀近い歴史がある伝統企業であることには変わりはありません。令和6年度における売上高は238億円で、関西・中国地方では強いプレゼンスを発揮しています。

主な事業内容としては、NTT電気通信設備工事をはじめ、各通信キャリアにおける携帯電話無線基地局の工事、また、官公庁や民需関連の各種電気通信設備工事などを手がけており、高い技術力を持つスタッフが多数在籍しているのが強みです。

当社は創立以来、通信インフラをはじめとする社会基盤の構築・維持を通じて人々の生活や社会活動を支

える企業として発展を遂げてきました。今後も通信インフラを支える企業として、世の中の変化に柔軟に対応しながら持続可能な社会の実現と企業価値の向上に取り組んでいきます。

### 手厚い研修制度で着実に成長 コミュニケーション力を重視

新卒社員の採用に関しては、新規高校卒業者を例年2~3人程度採用しています。入社後はエクシオグループ社のグループ企業と共に新入社員合同研修を受講し、約2週間かけて基本的なビジネスマナーを習得します。そして4月中旬からは職種ごとに必要な技能講習を実施し、約3~6カ月間かけて専門的な知識とスキルを身につけます。

研修が終了した後は正式に各部署に配属となりますが、OJT制度によって現



事業の根幹である携帯電話基地局



安全に工事を行う技術スタッフ

場の先輩社員がていねいに仕事を教えていきますので、現場経験を積みながら着実に成長していくことができるでしょう。また、ドローンを活用した点検業務やVRを用いた安全教育など、近年は新しい技術や手法を積極的に現場に取り入れ、社員のスキルアップを図っています。

求める人材像については、「優れたコミュニケーション能力を持つ人」を掲げています。当社の業務は社内・外の人も多く関わることになるため、周囲の人と円滑にコミュニケーションを図れる熱意ある若者を積極的に採用しています。そして入社後は教育・指導を通じて必要な知識と技能を習得し、安全意識と責任感を持って業務を遂行していただけることを強く期待しています。

ートし、会社指定のフィットネスクラブが割引価格で利用可能など、健康維持にも配慮した環境を提供しています。

就職を希望している高校生のみなさんに対しては、仕事に必要な知識とスキルは入社後に身につけることが可能ですので、「通信インフラ業界に興味のある方は、当社で社会人としての第一歩を踏み出してみませんか?」と、メッセージを送ります。素直に学ぶ姿勢や周囲と協力しながら物事に取り組む気持ち、安全を最優先に考える意識があれば必ずや当社で長く活躍することができるでしょう。

そして高校の進路指導担当の先生方に対しては、未来ある高校生を導く仕事をされていることに感謝を申し上げます。当社では高校新卒者を将来の基幹人材と位置づけ、長期的な視点に立った人材育成を行っています。

また、入社後は社会人としての基礎教育から業務に必要な知識・技能の習得まで、段階的な教育・指導を責任を持って行い、会社全体で成長をサポートする体制を構築しています。当社の事業内容に少しでも興味・関心のある生徒がいらっしゃいましたら、「安心して送り出していただけたいと思います。」と、お伝えしたいと思います。

### 入社6年目▶ 高校新卒就職者 特別インタビュー

#### 未経験者でも着実に成長できる環境が魅力

私は高校卒業後、エクシオ・エンジニアリング西日本株式会社に新卒で入社しました。現在は入社6年目を迎え、モバイルエンジニアリング部という部署で勤務しています。

この部門では、NTTドコモやau、ソフトバンク、楽天モバイルなどの各社と連携を図り、携帯電話サービスの利便性向上に貢献する業務を

行っています。具体的には、基地局の設置・増設や保守業務を中心に、都市部の高層ビルや郊外の鉄塔はもちろん、地下鉄や地下街の通信エリアの拡大なども行っています。

一日の流れについては、現場作業がある場合、作業場に到着後、まずは安全確認を行います。その後、アンテナ設備や通信機器の点検、設置作業、装置の接続確認、メンテナンスなどの作業を実施していきます。

午前中の作業が終わり、昼の休憩を取った後は引き続き設備の点検や作業などを行います。そして業務が終わった後は資料や報告書の作成に取りかかり、翌日の準備をして

夕方の6時頃に退社するというのが大まかな流れです。

入社して間もない頃は装置のつながりや仕組みが分からずに悩むこともありましたが、経験を積むにつれて次第に理解することができるようになり、現在は日々やりがいを感じながら働くことができるようになりました。

当社では未経験の方でも技術研修や先輩社員のみなさんのフォローがあるため、新規学卒者でも着実にステップアップできる環境ができています。社会インフラの整備という公共性の高い仕事に興味のある高校生のみなさんは、ぜひ当社に注目していただけたら嬉しく思います。



神戸市立科学技術高等学校出身 木津諒哉さん

## エクシオ・エンジニアリング西日本株式会社

### 時代を支えるインフラづくりに挑戦

●基幹事業 アクセスエンジニアリング、モバイルエンジニアリング、インフラエンジニアリング  
●代表者 代表取締役 児玉 文明  
●設立 1979年(昭和54年)  
●資本金 20,000,000円  
●従業員数 538人

#### 会社の強み・社風

当社は、同じエクシオグループ株式会社の子会社だった株式会社三協テクノと協栄電設工業株式会社が合併して誕生した会社です。お互いの会社でこれまで築いてきた技術力により、関西・中国・北陸エリアにおけるオールアクセス・オールモバイルに対応できる総合エンジニアリング会社として、お客様の信頼に応えています。

#### 高校生のみなさんへ

エクシオ・エンジニアリング西日本株式会社は、「真の技術者集団である」をスローガンに掲げ、通信建設分野における技術者が集まった企業です。社員一人ひとりが個々の技術・知識を高め、それらを結集してより大きな力に変えて発揮してきました。社会インフラの中でも重要とされる「通信分野」において社会に貢献しているというプライドが当社の熱源です。そのような環境の中で、我々と一緒に真の通信技術者を目指したいという熱意ある若者を求めています。



【事業拠点】 大阪技術センター、京都技術センター、福岡技術センター、鴻池技術センター、河内技術センター、兵庫技術センター、京都技術センター、東北技術センター、滋賀技術センター、東広島技術センター、中国支店、福山技術センター

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-2-10 EXEO X-Base A棟6F  
TEL 06-4792-7940 URL https://exeoeng-west.co.jp/

# 九州・沖縄 地域貢献『志事図鑑』 「女子商マルシェ」開催

宮崎県立  
飯野  
高等学校

## 探究活動を通して地域の課題解決に貢献 仕事と地元の魅力を再発見『志事図鑑』

宮崎県立飯野高等学校（宮崎県えびの市、五反隆行校長）は、昭和40年に開校し、令和7年に創立60周年を迎えた普通科高校だ。地域社会と密接に関わる探究活動に力を入れている同校は、『志事図鑑』という地域の企業ガイドブック制作に取り組んでいる。本稿では、進路指導主事の梅北瑞輝教諭を訪ね、お話をうかがった。

### ●探究活動で視野を広げる

「教室の外に、『みらい』がある。」を学びのコンセプトに掲げるのが飯野高校だ。同校が目標としているのは、世界で活躍できる人材の育成だという。

「総合コース」および「探究コース」からなる「普通科」と「生活文化科」の2



議論を重ねて『志事図鑑』を制作

学科を構えている。両学科とも地域社会との連携活動を通して生徒が多様な視点を持つことができる教育を展開している。

普通科総合コースでは、生徒が地域と協働する中で、社会で活躍することができるスキルを身につけ、卒業後の進路を考えていく。毎週水曜日の午後に取り組み「地域実習」では、えびの市が抱える課題の解決に向けて企画を立て、実際に解決策を実践し、最終的には成果を発表する。

普通科探究コースは、生

徒が自ら考えて創り上げたプロジェクトを通して、地域や社会の課題をグローバルな視点で新たな価値を創出していく。これまでに実施してきた具体例を挙げると、「京町温泉活性化プロジェクト」や「VR観光プロジェクト」「高校生起業家プロジェクト」「地域医療を考える高校生の会」などとなっている。

生活文化科は、専門領域「フード」「ファッション」「ICT」「保育」の観点から地域課題を解決する力を養う。身につけた専門知識や実践力で地域団体や大学と連携し、「子ども食堂」や「フードドライブ」「子育て応援イベント」など、社会貢献に取り組んでいる。

### ●ガイドブック『志事図鑑』制作

学科ごとに地域と密接に関わり、課題解決や支援活動を積極的に推し進めている飯野高校の探究活動や学習の土台にあるのが、えびの市の観光商工課と協力しながら1年次の生徒全員で取り組む『志事図鑑』の制作だという。

これは、地域で活躍する企業や事業者、技術者、若手経営者などのもとを生徒が訪ねてインタビューを行い、企業ガイドブックを制作するというものだ。キャリア教育の一環であると同時に地域の魅力を再発見する場として令和5年度に始まった。

生徒が高校生の視点から取材を行うことを通して、「なぜその仕事を選び、どのような思いで仕事をしているのか」という“志”を、地域住民との対話などから考える。

取材はもちろん、編集作業も生徒が主体となって行う。取材をした相手の想いを十分に汲み取った上で、読者に分かりやすく情報を伝えるために文章の構成や表現方法、写真の選定、編集作業など、細部に至るまで工夫を凝らし、完成を目指す。

単に職業を紹介するのではなく、働くことの意味や価値を考える機会の創出につながっている。

地域で学び、地域の未来を考える教育を1年次から実践している飯野高校。地域に貢献していくことを念頭に置きつつ、さらなる活動を発展的に推し進めていく構えを取っている。



『志事図鑑』令和7年度版

福岡女子  
商業  
高等学校

## コース制への改組で学びの深化を展望 生徒主体の「女子商マルシェ」に視線

福岡女子商業高等学校（福岡県那珂川市、柴山翔太校長）は、「創造」「実践」「敬愛」を校訓に掲げ、地域や社会に貢献しようとする志と実践力を持つ人材の育成を目指している。同校の在校生が主体となって企画・運営する「第19回女子商マルシェ」についてお届けする。

### ●多種多様な実践の場を用意

福岡女子商業高校の創立は昭和25年。「福岡県立筑紫野高等学校岩戸分校」として開校した。以来、今日に至るまで改称や学校法人八洲学園（本部・横浜市）への移管などを経て、令和7年に創立75周年を迎えた。令和8年4月からは、



生徒は4月から企画・運営に取り組んだ

「挑戦を、楽しめ。」というスローガンのもと、変化の激しい時代の中で生徒の挑戦や夢をさらに応援していくために、従来からある「商業科」を発展的に改組し、「特進コース」「ビジネスアクションコース」「デジタルフロンティアコース」という3コース体制となる予定だ。

特進コースは、簿記や情報といった科目を中心に、専門的な商業の知識を学んでいく。1年次から「日商簿記検定2級」の合格を目指しているのが特徴だ。

ビジネスアクションコースは、「簿記実務検定1級（全国商業高等学校協会主催）」の合格を目指すほか、情報処理の基礎やマーケティング戦略など、実社会で役立つ商業に関する幅広い知識を習得する。

デジタルフロンティアコースは、1年次からICT技術を活用した独自のカリキュラムを展開。実際にプログラミングを行い、実践的なスキルを学ぶ。

### ●「女子商マルシェ」で地元と接点

福岡女子商業高校では、さまざまなプロジェクトに取り組んでいる。生徒が修学旅行先やプランを練る「修学旅行プロジェクト」

のほか、養蜂からハチミツの商品開発・販売を行う「ミツバチプロジェクト」などがある。

1年間を通して多岐にわたる内容の取り組みが行われているが、ここでは昨年の11月29・30日に開催された「女子商マルシェ」を取り上げてみよう。

これは、生徒が地域企業と連携して商品販売や体験型サービスを提供する試みのこと。ビジネス力と社会性を育む場として位置づけられている。初開催は平成21年度。以来、ただ単に商品販売をするのではなく、学びの成果が産業社会につながるように常に実施内容や運営体制のアップデートに注意を払ってきた。令和4年度に行った運営資金の一部をクラウドファンディングで集めたこともその一つだという。今回挑戦



全校生徒一丸となって企画・運営する

したのは、「企業発掘」だ。これまで教員が行ってきた出展交渉を、ビジネスマナーや対人スキル、交渉力を磨く一環として生徒も意欲的に取り組んだ。

女子商マルシェの会期中、体育館と中庭には企業発掘によって出展された5店舗を含む計48店舗が立ち並び、生徒と企業が協力しながら運営に当たった。二日間の合計来場数は、過去最多の4,425人を記録した。

女子商マルシェで生徒の主体性や実行力を磨く福岡女子商業高校。今後の取り組みも熱くなりそうだ。

### 外国人材採用&活用

多様な国籍のコラボレーションで生産性を高める!

ポイント&ヒント

外国人材採用&活用

目前に突きつけられた「少子高齢化」と「人口減少」。今後大きな変容を余儀なくされる「日本社会」の中で、経済規模を維持し、さらなる成長を図るためには、「日本の未来」に対する示唆と提言が話題!!

お問い合わせ  
大学新聞社  
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24  
TEL 03-5925-1668

### 沖縄県の高校生のための進路応援BOOK 2026

沖縄県の高校生に最新の進路情報を!

巻頭特集  
沖縄県から未来へ羽ばたこう!!  
先輩たちの進学・就職成功体験談

沖縄県内高校生の就職事情・採用環境  
「沖縄県の仕事」再発見

▲好評既刊(2026年度版)  
沖縄県内の高校生の進路事情と共に、沖縄からの進学者を大歓迎する注目の学校や高校新卒就職志望者のスケジュールなどを紹介。希望の進路を実現した先輩からのメッセージなど、沖縄県に在住する高校生のみならず必須のエリア別進路情報誌です。

お問い合わせ  
ライセンスアカデミー  
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24  
TEL 03-5925-1656

### YBM 株式会社ワイビーエム

地下と水の技術とともに

●基幹事業 機械の組立加工・塗装・電気配線・製品部品の保守および荷造りと出荷業務  
●設立 1967年(昭和42年)  
●資本金 1億円  
●従業員数 280人

会社の強み・社風  
「地下と水の技術で明日の美しい地球環境づくりに貢献する」という方針のもと、建設・土木・鉱山・環境関連の機器を製造しているメーカーです。

女性社員も活躍中。男女問わず活躍できる環境が整っています。

〒847-0031 佐賀県唐津市原1534  
TEL 0955-77-1126  
URL https://www.ybm.jp/

### MAS ミネアアクセスソリューションズ

「ミライのクルマをつくる」

●基幹事業 自動車やバイクに関する部品の開発・製造・販売  
●設立 1962年(昭和37年)  
●資本金 215,000万円  
●従業員数 7,634人

会社の強み・社風  
当社は1962年(昭和37年)にホンダロックとして創業し、ドアクラウラーなどの自動車部品を構成する重要な部品の開発から製造・販売まで一貫して手掛けています。革新的な技術の追求、グローバルに、ミライのクルマづくりを支えています。

〒880-0293 宮崎県佐土原町下那珂3700  
TEL 0985-73-1211  
URL https://minebea-accessolutions.com/

### キャリア支援&就職ジャーナル

キャリア教育支援協議会

制作・発行 大学新聞社  
発行日 令和8年2月28日  
発行人 白田康則  
編集人 川窪達也  
取材・執筆・編集 加藤陽一 鬼頭葵 川井仁美 島崎八枝 森田 菜 小笹碧月 小山内暢子 津谷紗月 増田彩夏  
紙面デザイン&DTP制作 三井加洋子 中西玲斗

\*本紙の記事・写真、および図版等の無断転載、複製、転写、翻訳を禁じます。 [V-3330.168535E]  
©大学新聞社 2026 Printed in Japan

●ご意見・ご感想をお寄せください  
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-17-24  
編集 ☎ 03-5925-1668 営業 ☎ 03-5925-1705  
E-mail info@daigakushinbun.com  
URL https://daigakushinbun.com/

# インドネシアの教育トピックス vol.7

# 現地の大学内で日本留学・就職フェア開催

## 経済成長が期待されるインドネシア 日本と多角的な人的交流が進む

約1万7,000もの島々からなる世界有数の島嶼国家であるインドネシア共和国。野菜の「じゃがいも」は、1600年頃に現在のジャカルタ市を經由してオランダ人によって日本にもたらされたといわれ、その名前に歴史のひと幕が垣間見える。本稿では現地の日本語学習事情や大阪・関西万博の展示に関する日本・インドネシア両国の高校生による取り組みのほか、2月7・8日に現地で開催された「日本留学・就職フェア in インドネシア」の様子をレポートする。

### インドネシアの教育制度 世界第4位の人口を誇る

国際交流基金(本部東京・新宿区)によると、インドネシアの教育制度は小学校6年間、中学校3年間、高等学校3年間の6-3-3制。義務教育期間は7～16歳の9年間となっている。総務省統計局の「世界の統計2026」によれば、2024年の推計人口は約2億8,300万人で、世界第4位に位置している。

国語はインドネシア語で、主な地方語にジャワ語、スンダ語、バリ語などがある。母語は地方語で、インドネシア語を国語として小学校1年次から学習するケースが大半だという。第一外国語は英語で、前期中等教育(中学校)から必修科目として学ぶ。日本語は、後期中等教育(高校)の選択科目の一つである第二外国語の中で選択する形だ。なお、日本の外務省がインドネシア宗教省の2023年

統計から引用したところによると、インドネシアでイスラム教を信仰する人の割合は87%に上る。政治社会情勢および金融の安定化、個人消費の拡大を背景として著しい経済成長を続けており、令和4年には輸出入額ともに過去最高記録を樹立した。日本はインドネシアから主に鉱物性燃料や鉱石等の資源を輸入している。

### 日本語学習者は世界第2位 高校生の日本語学習者が多数

国際交流基金が23年3月31日に公表した『2021年度海外日本語教育機関調査報告書』によれば、21年度時点のインドネシアの日本語学習者数は71万1,732人。18年度実施の前回調査と比較して2,253人(0.3%)増えて、世界の国・地域別で中国に次いで第2位となった。インドネシアでは、日本語学習者の大部分を高校生が占めているのも特徴の一つだ。以前から、日本の政府開発援助(ODA)等による援助や出資・協力活動など、日本との経済面での結びつきの強さから実利的な目的で学習する者が多かった。近年は日本のアニメーション・マンガ・J-POPを契機として、日本語を学習する若者が多いという。

### 両国の生徒考案のオブジェ 大阪・関西万博で期間展示

インドネシアと日本の高校生との交流に関するトピックスとして紹介したいのが、インドネシアのブラウザジャヤ・スマート・スクール(インドネシア・マラン市)と徳島県立城東高等学校(徳島市)の生徒のアイデアをもとに作成された「サステナブルオブジェ」が、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」の関西パビリオン内の徳島県ゾーンで昨年10月5日から博覧会閉幕日の13日にかけて展示されたことだ。これは、「巡擬宝珠(めぐ

### 2026.2/7 スマラン会場



ディアン・ヌスワンタラ大学の学生をはじめ多くの若者が来場した



参加者に対面で日本留学情報を説明する日本語学校の担当者



会場では折り紙などの日本文化が体験できるコーナーも設けられた

### 2026.2/8 ジョグジャカルタ会場

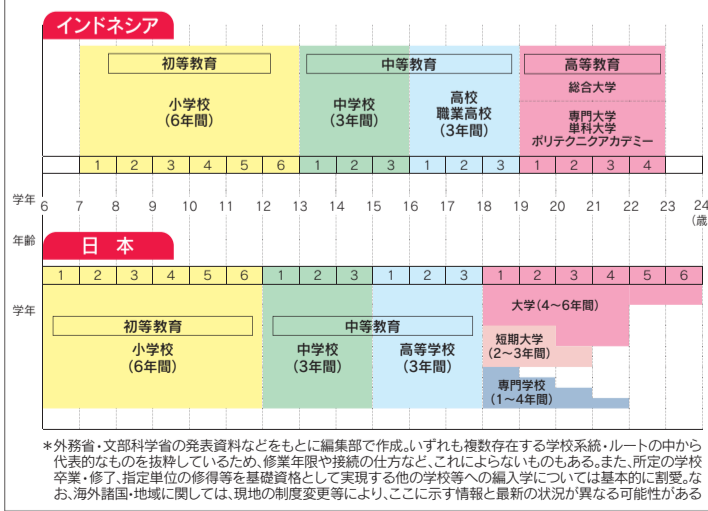


クリステン・ドゥタ・ワチャナ大学内で開催したフェアは活況を呈した



インドネシア現地の若者が日本留学・就職の情報を得る絶好の機会を提供した

### 日本およびインドネシアの学校教育制度(概略)



▲日本留学・就職フェアのチラシ

るぎぼし)一巡る命と祈りのかたち」と題する期間展示。擬宝珠とは橋の欄干等に取りつけられた装飾のことで、ネギの花に似ていることから「葱台」と呼ばれることもある。橋の安全祈願と結びつき、著名な擬宝珠も少なくない。この作品はさまざまな祈りを込めた現代の擬宝珠として両校の生徒が回収したペットボトルを素材に3Dプリンターで制作された。複数の民間企業の協力のもと、徳島県出身のデザイナーの都淳朗氏がオブジェとして仕上げた。

### 現地の大学内でフェア開催 日本留学・就職情報に視線

進路情報研究センター・ライセンスアカデミー(本社東京・新宿区)は2月7・8日、インドネシアの日本語留学希望者を対象とする「日本留学・就職フェア in インドネシア」を開催した。参加校ごとにブースを設置し、来場者が時間内に自由に移動できる個別面談形式で進行した。初日となった7日にディアン・ヌスワンタラ大学(インドネシア・スマラン市)を舞台とするスマラン会場には285人の参加者が訪れた。4年ぶりの開催となったスマラン会場には、ディアン・ヌスワンタラ大の学生のほか、スマラン市内・周辺の高校生も数多く来場した。来場者の多くは若年層で、会場内の各ブースでは真剣に質

問をする姿が見受けられた。会場で実施したアンケート調査で「英語で授業を受けたいですか?」と尋ねたところ、回答者全体の68.8%が「はい」と答えるなど、英語による学習を希望する者が多いことが分かった。翌8日、クリステン・ドゥタ・ワチャナ大学(インドネシア・ジョグジャカルタ市)を舞台にしたジョグジャカルタ会場の実施は3年ぶりで、多くの学生や高校生が来場した。会場内で実施したアンケート調査で「日本のどの地域で学びたいですか?」と尋ねたところ、「東京」が43.5%、「大阪」が32.5%、「その他」が24.0%となり、日本のさまざまな地域に関心が寄せられていた。ラ社は本年6月13日にジャカルタ近郊のベカシ会場で、14日にはスラバヤ会場で「日本留学・就職フェア」を開催する。